

浦 一也(美術学部デザイン)

『旅はゲストルーム』

旅に出るとホテルに泊まる。この本は泊まったホテルで必ずメジャーを取り出し、部屋の隅々まで寸法を測り、レターペーパーに記録し続けている私が綴った旅の記録。なぜこんなことを始めたか。芸大を出て設計事務所に勤務し、ホテル設計に携わった折、参考に他のホテルを調査したのがきっかけ。いまやそれは調査でも趣味でもなく、習慣、悪癖と化し、ついに単行本を出すまでになってしまったというわけ。

現在、建築やインテリアデザインの世界で「身体性」ということが真剣に語られている。非人間的な環境、空間。インターネットと携帯電話で人に会うことや買い物に行くことも少なくなる時代。そんな中でほんとうに人間的な生活をとり戻すために、第二の自然といわれる「身体」をもう一度見つめなおそうという動きがそれ。身体を使って空間を確かめ、新たな空間や環境を考え直すメジャーリングという作業もこうしてみると捨てたものじゃないと思うのだが…。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)